

令和2年度佐世保市学力調査＜佐世保市の結果・改善策等について＞

I 調査対象・人数

（国語・算数）小学校及び義務教育学校前期課程 第4学年・・・2261名

（国語・数学）中学校及び義務教育学校後期課程 第1学年・・・2024名

II 教科別領域別結果

1 小学校

教科	国語					算数				
	話す 聞く	書く	読む	言語	全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係	全体
市平均正答率	70.1	52.0	70.1	59.8	62.4	68.4	67.2	77.8	68.9	69.0
全国平均正答率	71.8	49.2	71.5	65.4	64.6	74.3	70.5	83.0	74.4	74.2
全国比達成率%	97.6	105.7	98.0	91.4	96.6	92.1	95.3	93.7	92.6	93.0

2 中学校

教科	国語					数学				
	話す 聞く	書く	読む	言語	全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係	全体
市平均正答率	56.5	50.1	65.9	67.1	61.5	68.5	61.7	74.8	58.3	64.5
全国平均正答率	60.3	57.8	65.8	68.9	64.4	69.9	64.3	77.7	65.6	68.6
全国比達成率%	93.7	86.7	100.2	97.4	95.5	98.0	96.0	96.3	88.9	94.0

III 課題と分析及び改善策（○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題）

1 小学校

教科	課題 ※【問題番号】	平均正答率	改善策（例）
		市 国	
国 語	○ 主語と述語について理解している。		
	○ 書こうとすることの中心を明確にして書くことができる。		
	○ 理由や事例を挙げて書くことができる。		
	■ 漢字を正しく書く。 【2（2）①】	49.7 71.0	・ 「漢字の広場」を活用するなど漢字への興味を持たせる学習を行うとともに、1字1字の成り立ちや用例を確実に身に付けさせる。理解を深めた上で、反復練習を行うことで定着をはかる。
	■ 漢字を正しく読む。 【2（1）①③】 ※数値は2問の平均	46.6 61.0	・ 新出漢字として扱う時の指導を踏まえて、他教材を読む時や学校生活の中で繰り返し確認することで、学習後はいつでも正確に読むことができる力を身に付けさせる。
	■ ローマ字のつづりを理解することができる。【3（2）】	46.5 52.0	・ 授業では、ローマ字の読み方・書き方や原理原則を確実に理解させ、練習を行う。学習後は、習熟のための時間を確保し、必要に応じて小テスト等で定着をはかる。
	▲ 相手や目的に応じて、話すことができる。【6（1）】	48.4 53.0	・ 対話活動において「何のために」「どのくらい」「どの場面で」「何について」話し合うかを明確にし、その単元の指導事項を確実に身に付けさせる。
	▲ 登場人物の気持ちを読み取ることができる。【4（2）】	70.4 74.0	・ 本文に傍線や書き込みをしたり、キーワードとなる言葉を色線で囲んだりするなど、具体的な手立てを工夫することによって、読み方を学ばせる。

算 数	○ 同分母分数の加法計算ができる。 ○ 2けた÷1けた（余りなし）の計算ができる。 ◎ 地図から道のりを読み取って、その和を求めることができる。		
	▲ 2けた×2けた=4けたの計算ができる。【1（4）】	56.2 73.0	・ 筆算の仕方の意味を理解させ、計算技能の習熟を図るとともに、計算結果を見積もり、計算の確かめに役立てさせる。
	■ 小数の減法計算ができる。【1（7）】	55.0 65.0	・ 数直線上での小数・整数の大小や順序、0.1の何個分の考え方で整数と同じ見方をするなどの小数の仕組みとともに、小数の計算は、整数と同じ原理、手順であることを理解させる。
	▲ 小数の相対的な大きさについて理解している。【3（2）】	74.0 86.0	・ 小数だけでなく整数の学習でも、相対的な大きさ、つまりある位の単位に着目してそのいくつ分という見方を、具体物や半具体物を用いて、視覚的に理解させる。
	■ 1/8Lの8個分がわかる。【4（1）】	43.9 52.0	・ 全体を「1」と捉えて部分を分数で表す分割分数と、実際測定したときの大きさを表す量分数の違いを、具体物等で実感をもって理解させる。
	■ 数直線上に示された分数を読み取ることができる。【4（2）】	64.8 71.0	・ 分数の学習の際には、常に何を「1」と捉えているのかを意識させる。

2 中学校

教科	課題 ※【問題番号】	平均正答率		改善策（例）
		市		
		国		
国 語	○ 聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。（昨年度と同様） ○ 文章の構成や展開をとらえることができる。 ○ 文章の展開をとらえて、その内容を整理することができる。			
	▲ 相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめることができる。【1（4）】	33.3 41.0		・ 話合いの話題や方向を捉えるためには、自分自身が話合いを進める立場になって、どのように進めたらよいのかを考えることが大切である。そうすることで、話題や方向を考える視点が育成でき、その視点に沿って自分の考えをまとめるなどの活動を取り入れる。
	▲ 主語・述語について理解している。【3（1）】	65.4 72.0		・ 文法学習「文の成分」での主語・述語の関係について理解を深めるとともに、散文等での読み取りを行う上で、主語・述語の関係を確認するなどの活動を取り入れる。
	▲ 指定された文字数、3段落構成、自分の考え及び理由を書くことができる。【7】 ※数値はそれぞれの条件の平均	50.1 57.8		・ 自分の考えとその理由を明確に書くことができるために、主張、事実、理由付けを明確に区別する三角ロジックを使って意見を書く活動に取り組みせるとともに、書いたものを生徒自身が自己評価する活動を設定する。
数 学	○ 異分母分数の加法（約分なし）の計算ができる。 ○ 表から平均を求めることができる。 ○ 比例の関係を、xとyを使って式に表すことができる。			
	▲ 分数÷分数に関する文章題を解くための式をつくること 【3】	19.8 30.0		・ 分数の除法においては、直線図等を利用し、何を「1」と捉えているのかを意識させることで、理解を深める。
	▲ 割合について理解し、クラスの人数と男子の人数から割合を求めることができる。【13（1）】	43.7 53.0		・ 割合の問題においては、「もとにする量」と「比べられる量」を意識させ、図式化するなどして理解を深める。
	■ 百分率について理解し、割引後の代金を求める式を選ぶことができる。【13（2）】	51.0 65.0		・ 日常生活にそった内容を取り入れた授業展開を工夫する中で、求める式だけでなく、式の立て方を説明する場面を設定し、理解を深める。
	▲ 比の考えを利用して、全体から一部の量を求めることができる。【15（2）】	56.4 90.0		・ 具体例を用いて、どのように比の性質を利用するのか実感をもって理解させる。また、誤答を示し、どのような考えで誤りを行ったのか考えさせることで理解を深める。

Ⅲ 考察

すべての教科において、全国の平均正答率を下回っている現状である。

全体において、次の2点が継続した課題としてあげられる。

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られていない。
- ・複数の情報から、求められている条件等を踏まえて的確に読み取る力が十分でない。

小学校低学年から、学んだことを他教科等に生かしたり、生活の中で活用したりする機会を意識的に設定することで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることが必要である。また、文章の要約や聞いたことを箇条書きにまとめる活動や、様々な情報について、視点やテーマを決めて話し合う活動を設定する等、情報を整理する力を高めていくことが求められる。

今後、各学校において、児童生徒に身に付けさせたい力を明確に位置付けた単元づくり、何のために学ぶのかという「学びの必然性」を感じられる授業づくり等、質の高い授業を目指した校内研修を行うことで授業改善を進め、市全体の改善をはかっていきたい。

以下、各教科についての考察は以下の通りである。

1 小学校

【国語】

- 大問番号7「書くこと」領域の問題及び大問番号3「主語と述語」の問題については、前学年までの適切な指導の成果が表れ、全国比よりも高い正答率となっている。ただし、大問番号7（最終問題）の無解答率は27.5%あり、「時間不足」もしくは「書く力が不足」と受け取れる児童も一定数存在する。時間が不足している児童に対しては、テストのやり直しと解説によって、このような形の問題形式に慣れさせたい。書く力が不足している児童に対しては、日常的に機会をとらえて、個別に指導を徹底し、必要な力を身に付けさせる。
- 大問番号4「読むこと」領域（物語文）3つの設問で全国を下回っている。低学年の段階では、本や作品の題名、場面の様子を描いた挿絵なども手掛かりにしながら「誰が」「どうして」「どうなったか」などを把握することを繰り返して、物語全体の内容を正確に理解することが重要である。その学習が、中学年での「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える力」につながる。「単元で身に付けさせたい力」を精選し、指導事項を厳選することに加えて、学習指導要領に示されるような学年の系統性も意識しながら、確実な「読む力」を身に付けさせたい。

【算数】

- ほとんどの設問で全国を下回っており、かけ算の計算問題など基本的な知識・技能において、全国平均との差が大きい。また、小数、分数の理解に課題が見られ、中学校数学の課題につながっている。算数は既習の学びを活用して新たな学びを獲得していく教科である。低学年から、学習内容の確実な定着を図り、学びをつなげていくことが求められる。そのためには、基本的な知識・技能の習得において、反復練習とともに、「なぜそうなるのか」意味理解を伴った理解と、活用しながら定着を図っていくこと。そして、単元づくりの際に、単元で身に付けさせたい力とともに、関連する既習の学びを明確にし、子供たちもそのつながりを実感することが大切である。
- 記述の問題や複数の情報から適切に読み取り筋道立てて考える問題において無解答率が高い。日々の授業の中で、まずは、問題文で着目すべきところの確認や、問題文の中の数量関係の図等に整理すること。筋道立てて考えるために、活用できそうな既習の学びや考え方の見通しをもたせ、自分の考えを書く活動を取り入れることを大切にしたい。書く活動においては、表出させたい内容を教師がもっておくことで、適切な助言、発問ができる。既習を生かして問題を解決する経験を積み重ね、分からない問題にも挑戦する姿勢を育てたい。

2 中学校

【国語】

- 第1学年の「読むこと」の領域では、正答率が全国平均を上回るなど、改善の兆しが見られる。それぞれの学校で地道な読み取りの学習を行ってきた成果と思われる。一方で、主語・述語の関係を正しく理解できていないことが明確となった。主述の関係は、文脈を正しく理解するために、全教科で必要な力である。漢字等も含め既習事項については、定着状況を確認して、関連ある学習内容の際に反復学習を行い、自分自身でできているか、確認を行うことが大事である。また、読み取った（話し合った）ことを基に、効果的に表現することについては、継続課題として挙げられる。日々の授業の中で、目的意識をもって読解をし、読解した内容を表現することや互いに評価し合う活動にまでつなげていく場面（複数の領域を適切に関連させる学習活動）を積極的に取り入れる必要がある。

【数学】

- すべての領域で、正答率が全国平均を下回っている。中学校の学習の基礎となるのは、小学校での履修内容である。したがって、既習内容の定着状況が不十分だった内容は、中学校の学習の中で具体例や図を示しながら、より丁寧に指導し、確認していくことが重要となる。特に「数量関係」の領域について、達成率が低い。この領域は、導入や活用場面で身近な事象の問題を取り扱うことが多いため、単元・授業を構想する際には「何を学ぶか」「何が身に付いたか」を実感できる内容を工夫する必要がある。また、形式的に求め方を覚えるのではなく、「どうしてそうなるのか」という意味の理解を深め、求め方など根拠をもって説明する場面を授業に設定するとよい。
- 記述問題や選択・短答の問題であっても長い文章の問題になると無解答率が高い。したがって、書く力と読解力に課題があることが分析できる。普段の授業の中で、意図的に自分の考えを書く活動や表現する場面の設定、また、ねらいを明確にした文章の長い問題を設定するなどの工夫が必要になる。